

ヒロシマ・ナガサキ・ヒバクシャの思い受け継ぎ世界へ 世界青年のつどい成功めざす全国交流ニュース

[2006年7月24日 No.17]

発行: 第2回世界青年のつどい準備委員会 電話03 5842 6035 FAX03 5842 6033
URL http://www.geocities.jp/youth_against_nukes/index_jp.html Eメール youth_against_nukes@yahoo.co.jp

ピースジャムin京都、世界大会にむけ各地で運動すすむー京都

7・9首都圏大集会を力に、基地県神奈川で世界大会プレ企画が行われています。

宣伝や学習会を多彩に

京都 1000人の青年代表を送ろうと頑張っている京都から届いたニュースを紹介します。

洛南・山城の青年でつくる平和サークル「憲ぽっぽ」が近鉄新田辺駅前で行った宣伝行動を行い、10人が参加。1時間の宣伝で50筆をこえる署名が集まりました。「核兵器を現実を使う戦略なんておかしい。ぜひがんばって」と同志社大学生が声をかけてくれました。

民青北地区委員会と「ピース・NOW」実行委員会は7月17日、世界大会プレ企画「バックトゥザフューチャー」を開催。地雷除去やこども兵の社会復帰支援に携わるNGO「テラ・ルネッサンス」の鬼丸さんと被爆者の米倉さんを招いた講演会を開催しました。企画には30人の青年が参加し、2人の話に熱心に耳を傾けました。参加した青年たちからは、「言葉では言い表せないことがあったんだとわかった」「戦争が本当におろかなことだと痛感した」「戦争は人の心を傷つけ過ぎる。今週土曜の高校生署名行動も絶対行こうと思う」などの感想が出されました。北地区委員会は世界大会に青年100人を送ろうとがんばっています。（「ピースジャム・原水禁大会交流ニュースNo.3」より）

学習会「ヒロシマに行こう」開催

神奈川 7月22日、学習会「ヒロシマに行こう」が、日本平和委員会常任理事の川田忠明さんを迎えて開催されました。川田さんは、「被爆者の心の支えに

なってきたのは『核廃絶』の思いであり、そのために原水爆禁止世界大会はどうしても必要だった」「朝鮮戦争・ベトナム戦争やアフガン戦争・イラク戦争などでも、アメリカは核兵器を使う計画で終わった。世界大会の開催をはじめとする世論の力がアメリカの手をしばっている」と話しました。



真剣に話を聞く参加者（7月22日）

また、「昨年の世界大会にフランスから青年が80人参加したことを契機に、ヨーロッパで青年の平和のネットワークができるなど大きく世界は動いている。『戦争より平和がいい』という思いも大事だが、人間の問題・生き方の問題として、被爆者の思いにも心を寄せて戦争を繰り返させないことの意味をかみしめてほしい。そのためにもヒロシマ・ナガサキに行ってみよう」と語りました。参加者からは、「世界はジグザグあっても確実に核廃絶に向かって進んでいるんだと思った」などの感想が出されました。

かながわツアー実行委員長に選ばれた、佐藤大地さん（大学1年生）は、「世界の流れをつかみ、神奈川・湘南で被爆や戦争体験を広げたい」と語りました。

（「かながわバスツアーニュースNo.3」より）